



法人案内

認定NPO法人さくらんぼ

法人概要

法人名称：認定NPO法人さくらんぼ

所在地：神奈川県横浜市瀬谷区三ツ境17-1 日栄食品(株)三ツ境ビル

電話番号：045-367-7224

従業員数：208名(2021年4月時点、パートアルバイト含む)

認定NPO法人さくらんぼは、 横浜市瀬谷区で活動している法人です。

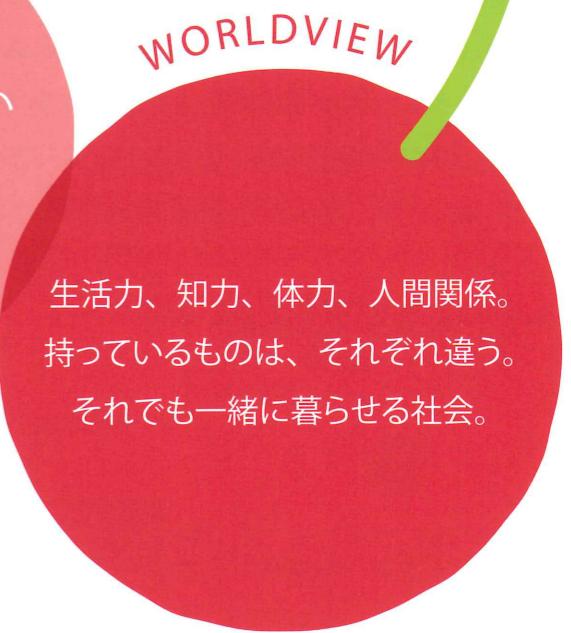
1997年に小さな保育園を立ち上げたことから始まり、
地域のニーズに応えながら事業を育ててきました。
現在は、保育園、学童保育、地域子育て支援拠点、児童家庭支援センター、
ヘルパー派遣事業などを運営しています。
また、さくらんぼは、障がいを持つ方やシングルマザーなど多様なバックグラウンドのある方も含めて、
地域の人の働き場でもあります。
さくらんぼは、2002年にNPO法人となり、2018年に認定NPO法人となりました。

さくらんぼのミッションは、 「参加障害のない街づくり」です。

“参加障害”とは、誰かの社会参加を阻んでいる、環境のがわにある障害のことです。
例えば、道に段差があって、車いすに乗った方が行きたいところに行けない時、
何がその方の自由な行動を阻んでいるのでしょうか？
自由を阻んでいる原因は、足が自由に動かないことではなく、道に段差があることです。
例えば、日本語の読み書きが苦手な外国人の母親が、興味はあるのに、
子どもの小学校の懇親会に参加できない時、何がその方の選択を狭めているのでしょうか？
選択を狭めている原因は、日本語が読める人にしか情報が届かない仕組みや、
「参加しても孤立してしまうかもしれない」と思わせる雰囲気にあるかもしれません。
参加障害は、物理的な障害とは限りません。
“難しい日本語が読めない人に情報が届かない仕組み”
“排他的な雰囲気”
仕組みや慣習、風潮などが、誰かの参加障害になることも少なくありません。
どんな特性や背景を持つ人も排除されることなく、その人がその人のままで、
地域で暮らせるために
「事業やプロジェクトを通じて」
「地域の働き場となることで」
私たちは、参加障害のない街づくりをすすめています。

さくらんぼクレド

SAKURANBO CREDO



さくらんぼマインド

SAKURANBO MIND

私たちは、ひとりひとりが
力を持っていることを信じます

1 尊重

相手の気持ちを尊重します。ただし、
子どもと大人の利害が対立する場合は、
子どもの側に立ちます。

2 依怙覇扈上等

その人に必要なこと、
必要なやり方を大切にします。

3 フットワーク

気になることがあった時、
ぱっと動ける身軽さを大切にします。

4 セルフケア

いきいきと働けるために、
自分の心身のケアも大切にします。

さくらんぼの事業運営の特徴

さくらんぼは、1997年にひとつの保育園を立ち上げたことからスタートしました。その後、保育園ですくいきれなかった困りごとに、ひとつひとつ対応することで事業を広げてきました。多くの事業は、制度や事業計画ありきではなく、目の前の子どもやその家族の困りごとに応えることから始まっています。誰かのためのインフォーマルなサポートがやがて事業となり、中には、公的な制度となったものも少なくありません。現在さくらんぼは9種類の事業を運営しています。これらの事業が連携することはもちろん、個々の事業が複数の機能を持つことで、柔軟に困りごとに対応できるようになっています。

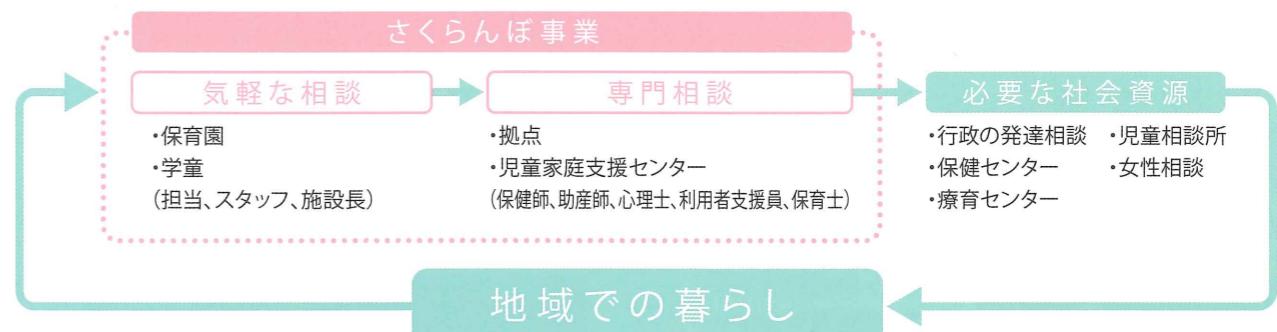
特徴① “親子の生活を支える”という視点

子どもの生活は、保護者の生活と切り離して考えることはできません。子どもがよりよく育つためには、その保護者が抱える困難も視野に入れながら“親子の生活を支える”ことが必要です。例えば、さくらんぼの保育園では、毎日夕方に“おにぎりの時間”があります。希望すれば誰でもおにぎりを食べることができます。保育園からの帰り道、子どもが「おなかがすいた」とぐずることが減れば、迎えに来た保護者の負担を軽減することができ、親子が心穏やかに過ごすことができます。また、家庭で食事をとることが難しい子どもにとっては、ほんの少しお腹を満たせる夕食になります。保育園に送迎することが難しい家庭に対しては、保育園とヘルパー派遣事業で連携し、ヘルパーが保育園の送迎をすることもあります。



特徴② 多様な子育て相談

子育てにおける困りごとの根っこには、子どもの発達、自身の心身の健康、夫婦関係、経済状況など、複数の問題が横たわっていることが少なくありません。困難を抱える方が問題を解決していくためには、まずは自身の困りごとを話せる場が身近にあることが大切だと考えています。さくらんぼは、子育て相談ができる場を多く設けています。保育園で気軽な子育て相談をすることもできますし、地域子育て支援拠点や児童家庭支援センターで、助産師や心理士や利用者支援員などに相談することもできます。私たちは相談の内容に応じて、必要な社会資源につなげながら、地域での子育てを支えています。



特徴③ 子育てインフラとしての一時預かり

私たちは、両親が働いている家庭だけでなく、全ての家庭に保育園が必要だと考えています。例えば、保護者が体調を崩したときや、保護者が介護や看護を抱えたとき、子どもを誰にも預けられないことは、保護者にとっても、子どもにとっても大きな負担となります。例えば、こんなことがありました。ある日一時保育を利用したお母さんが「この子がこんな風に、自分のやりたいように遊んでいる姿が見られてとても嬉しい！」とおっしゃいました。その子は、これまで、障害を持つ兄弟のケアのために、いつもおんぶされていて、自由に歩き回ることができなかつたそうです。親がひとりの人間として生活し、子どもがひとりの人間として育っていくためには、必要な時には、子どもを預かってもらえる仕組みが必要です。大家族や近所で子どもを預けあう習慣がなくなった今、一時預かりは、子育ての重要なインフラです。私たちは一時保育の可能性に注目し、20年まえから、一時預かりを積極的に行ってきました。2009年には、一時預かり専門の保育園も設立しました。現在は、保育園の一時保育枠に加え、ひろばでも一時預かりを利用することができます。

事業一覧

BUSINESS LIST



| 認可保育園

医療的ケアが必要な子どもも
みんなで一緒に過ごせる保育園



保育室「ネスト」／ネスト瀬谷

医療的ケアが必要なお子さんも入所いただけます。一時保育や子育て相談など地域の子育て支援も行っています。瀬谷駅直結のビルの中にあるので、利便性も高く、安心して通っていただけます。

| 小規模保育事業

0歳から2歳の子どもたちが
一緒に育ち合う保育園



はぐ@ねすと／ていんく^2@ねすと／ネストばば／ネストうーたん

| 乳幼児一時預かり事業

急な用事、リフレッシュを
サポートする地域の保育室



一時預かり専門の保育室です。
リフレッシュ、通院、社会参加、急な用事など、理由を問わず、子どもを預けることができます。

保育ルーム「ばおばぶ」／保育ルーム「くくる」

| 放課後児童健全育成事業

放課後もみんなと
楽しく過ごせる居場所



放課後児童クラブ ネストキッズ学童クラブ

放課後や小学校の長期休暇のとき、みんなと一緒に過ごせる場所です。地域の中で、大人も子どもも関わりあいながら、子どもたちの生きる力を育んでいくことを目指しています。

| 地域子育て支援拠点事業 未就学児とその保護者のための居場所



横浜市瀬谷区地域子育て支援拠点 にこてらす
横浜市親と子のつどいのひろば ひろばネスト

子育て中の親子が、仲間をつくり、子育て情報を得るために施設です。子どもの発達や生活の困りごとについて、気軽に相談できます。

| 児童家庭支援センター 地域の子育て相談所



児童家庭支援センターういづ

臨床心理士・専門相談員が、子育ての困りごとや不安についての相談をお受けします。家庭状況によっては、行政を通じて、夜間・休日の預かりや宿泊にも対応します。三ツ境駅から歩いてすぐの、おうちのような雰囲気の施設です。

| 共生事業

"福祉"でも"自立"でもない、
"地域の支えあい"の延長としての
支援を提供します



福祉の枠組み「じゃない」からできる地域の支え合いの仕組みとして、①親を頼ることが難しい学生のための下宿、②困難を抱えた方のための短期居住支援、③来店型フードバンクを行っています。

産前産後、急な予定、リフレッシュの時に、おうちに
出向いて、育児や家事の
サポートを行います。



派遣事業子育てなんくる応援団

| 関連団体 1

カムオン・シェシェ

外国にルーツを持つ家庭が地域で子育てるための相互扶助を行う団体です。

翻訳、通訳、役所病院への同行などの活動を通じて、ネットワークづくりを行っています。



| 関連団体 2

お福分けの会

フードバンク活動と連携し、子育て中の困窮家庭に食品を配布している団体です。

お中元やお歳暮の御裾分けや日用品バザーなども行っています。